



2008年度上期決算説明会
上期決算概要と年間業績予想



代表取締役
副社長 廣瀬 博

2008年11月4日

2008年度上期業績

【 連 結 】	2007年度上期	2008年度上期	前年同期比
売上高	9,319億円	10,092億円	+8.3%
営業利益	484億円	310億円	△35.9%
経常利益	577億円	230億円	△60.2%
純利益	264億円	63億円	△76.2%
ナフサ価格	58,800円/kl	78,200円/kl	
為替	119.40円/ドル	106.12円/ドル	

2008年度上期 部門別売上高・営業利益

(単位:億円)

		07年上期	08年上期	前年同期比	主な営業利益増減要因
基礎化学	売上高	1,598	1,539	△4%	原料価格高騰
	営業利益	79	△12	—	
石油化学	売上高	2,906	3,341	+15%	原料価格高騰
	営業利益	20	△101	—	
精密化学	売上高	475	467	0%	原料価格高騰
	営業利益	61	22	△64%	
情報電子化学	売上高	1,377	1,625	+18%	偏光フィルム、カラーフィルター販売数量増加、合理化
	営業利益	△63	123	—	
農業化学	売上高	1,006	1,136	+13%	メチオニン価格上昇 農薬販売数量増加
	営業利益	108	123	+14%	
医薬品	売上高	1,164	1,207	+4%	薬価改定 研究開発費増加
	営業利益	260	192	△26%	
その他	売上高	794	776	△2%	新規事業研究開発費等増加
	営業利益	17	△37	—	
全社	売上高	9,319	10,092	+8%	
	営業利益	484	310	△36%	

2008年度上期業績

【 連 結 】	2007年度上期	2008年度上期	前年同期比
売上高	9,319億円	10,092億円	+8.3%
営業利益	484億円	310億円	△35.9%
経常利益	577億円	230億円	△60.2%
純利益	264億円	63億円	△76.2%
ナフサ価格	58,800円/kl	78,200円/kl	
為替	119.40円/ドル	106.12円/ドル	

2008年度年間業績予想

【 連 結 】

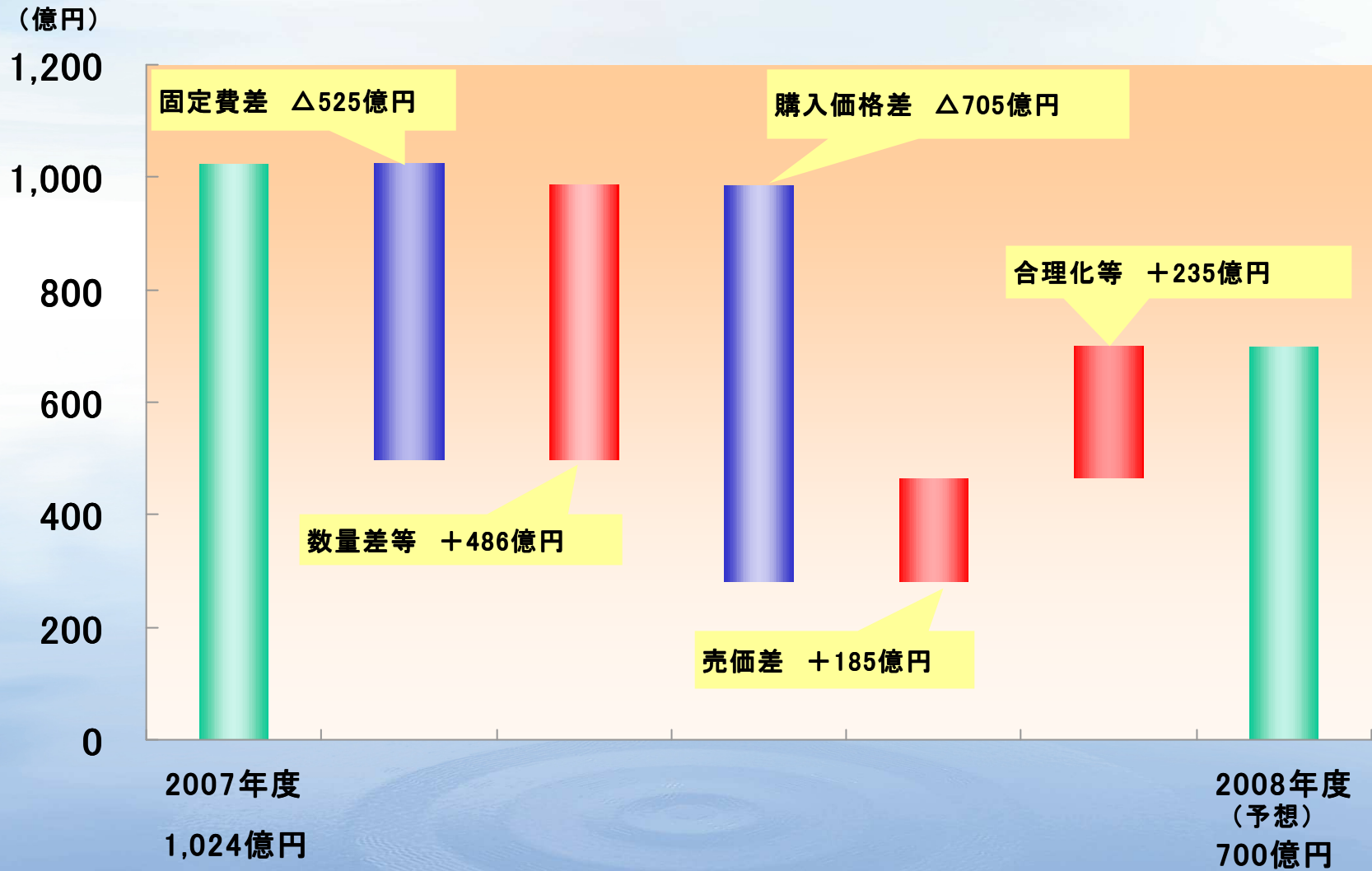
	2007年度実績	2008年度予想	前期比
売上高	1兆8,965億円	2兆100億円	+6.0%
営業利益	1,024億円	700億円	△31.6%
経常利益	928億円	600億円	△35.3%
純利益	631億円	150億円	△76.2%
ナフサ価格	61,500円/kl	66,100円/kl (下期 54,000円/kl)	
為替	114.44円/ドル	104.00円/ドル	

2008年度予想 部門別売上高・営業利益

(単位:億円)

		2007年度	2008年度	前期比	主な営業利益増減要因
基礎化学	売上高	3,147	3,000	△5%	上期原料価格高騰 固定費増加
	営業利益	106	△20	—	
石油化学	売上高	6,033	6,500	+8%	スチレンモノマー、プロピレンオキサ イド採算悪化 固定費増加
	営業利益	45	25	△45%	
精密化学	売上高	929	1,000	+8%	上期原料価格高騰
	営業利益	114	75	△34%	
情報電子 化学	売上高	2,975	3,350	+13%	偏光フィルム販売増加 合理化
	営業利益	63	155	+146%	
農業化学	売上高	2,004	2,300	+15%	メチオニン価格上昇 農薬販売増加
	営業利益	209	235	+12%	
医薬品	売上高	2,376	2,400	+1%	薬価改定 研究開発費増加
	営業利益	465	310	△33%	
その他	売上高	1,501	1,550	+3%	新規事業研究開発費等増加
	営業利益	22	△80	—	
全社	売上高	18,965	20,100	+6%	
	営業利益	1,024	700	△32%	

営業利益の比較 2007年度対2008年度



2008年度年間業績予想

【 連 結 】

	2007年度実績	2008年度予想	前期比
売上高	1兆8,965億円	2兆100億円	+6.0%
営業利益	1,024億円	700億円	△31.6%
経常利益	928億円	600億円	△35.3%
純利益	631億円	150億円	△76.2%
ナフサ価格	61,500円/kl	66,100円/kl (下期 54,000円/kl)	
為替	114.44円/ドル	104.00円/ドル	

2009年度の事業環境と業績改善への取り組み

【事業環境】

- ◆ 金融危機の実体経済への波及による需要減少
- ◆ 米国・欧州経済低迷を背景とする円高懸念
- ◆ 原料価格の急激な変動
- ◆ 中東・中国における石油化学新規設備の相次ぐ稼動
- ◆ 液晶関連業界の供給過剰長期化
- ◆ 株価下落にともなう退職年金数理差異償却負担の増加

【業績改善への取り組み】

- ◆ ラービグ計画
 - ・ 第1四半期中の全プラント稼動
- ◆ 既存事業の収益改善
 - ・ 適正売価の確保による採算改善(基礎、石化、精密)
 - ・ 高機能・高付加価値製品(石化)、成長・戦略製品(情報電子、農業、医薬品)等の拡販
 - ・ 徹底した合理化によるコスト競争力向上(全部門)
 - ・ 業務の効率化による総固定費の削減(全部門)
- ◆ 研究開発の効率化
 - ・ 選択と集中の徹底による削減
- ◆ 設備投資の厳選
 - ・ 投資案件の厳選と資産圧縮の促進による財務体質の強化
- ◆ 経費の削減

2009年度の事業環境と業績改善への取り組み

【事業環境】

- ◆ 金融危機の実体経済への波及による需要減少
- ◆ 米国・欧州経済低迷を背景とする円高懸念
- ◆ 原料価格の急激な変動
- ◆ 中東・中国における石油化学新規設備の相次ぐ稼働
- ◆ 液晶関連業界の供給過剰長期化
- ◆ 株価下落にともなう退職年金数理差異償却負担の増加

【業績改善への取り組み】

- ◆ ラービグ計画
 - ・ 第1四半期中の全プラント稼働
- ◆ 既存事業の収益改善
 - ・ 適正売価の確保による採算改善(基礎、石化、精密)
 - ・ 高機能・高付加価値製品(石化)、成長・戦略製品(情報電子、農業、医薬品)等の拡販
 - ・ 徹底した合理化によるコスト競争力向上(全部門)
 - ・ 業務の効率化による総固定費の削減(全部門)
- ◆ 研究開発の効率化
 - ・ 選択と集中の徹底による削減
- ◆ 設備投資の厳選
 - ・ 投資案件の厳選と資産圧縮の促進による財務体質の強化
- ◆ 経費の削減

2009年度の事業環境と業績改善への取り組み

【事業環境】

- ◆ 金融危機の実体経済への波及による需要減少
- ◆ 米国・欧州経済低迷を背景とする円高懸念
- ◆ 原料価格の急激な変動
- ◆ 中東・中国における石油化学新規設備の相次ぐ稼働
- ◆ 液晶関連業界の供給過剰長期化
- ◆ 株価下落にともなう退職年金数理差異償却負担の大幅増加

【業績改善への取り組み】

- ◆ ラービグ計画
 - ・ 第1四半期中の全プラント稼働
- ◆ 既存事業の収益改善
 - ・ 適正売価の確保による採算改善(基礎、石化、精密)
 - ・ 高機能・高付加価値製品(石化)、成長・戦略製品(情報電子、農業、医薬品)等の拡販
 - ・ 徹底した合理化によるコスト競争力向上(全部門)
 - ・ 業務の効率化による総固定費の削減(全部門)
- ◆ 研究開発の効率化
 - ・ 選択と集中の徹底による削減
- ◆ 設備投資の厳選
 - ・ 投資案件の厳選と資産圧縮の促進による財務体質の強化
- ◆ 経費の削減

注意事項

本資料に掲載されている住友化学の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しです。これらの情報は、現在入手可能な情報から得られた情報にもとづき算出したものであり、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等に重大な影響を与えうる重要な要因としては、住友化学の事業領域をとりまく経済情勢、市場における住友化学の製品に対する需要動向、競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場において住友化学が引き続き顧客に受け入れられる製品を提供できる能力、為替レートの変動などがあります。但し、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。